

調査団体名	豊橋市自然史博物館		団体代表者名	松岡敬二(館長)	
設立年	1992年(豊橋総合動植物公園として再整備)		団体URL	http://www.toyohaku.gr.jp/sizensi/	
活動地域	豊橋市内中心		会員数	職員:館長以下スタッフ、学芸員12人 ボランティア(1996~):約40人	
取材日	2009/9/10	レポート作成者	木村正彦 松井賢子	調査員	木村、松井
<活動内容>					
<p>豊橋市自然史博物館は、これからの生涯学習の場として、子どもからお年寄りに至るまで、地球の歴史と自然の仕組みについて学ぶとともに、自然に親しみ、自然を大切にすることを目的としている。</p> <p>展示構成は、地球・生物の歴史をたどる展示と身近な郷土の自然史を紹介する展示から成り立っている。展示は地球の誕生した46億年前の世界から始まり、古生代展示室、中生代展示室、エドモントサウルス展示室、新生代展示室へと、古い年代から新しい時代に向かって、過去の世界を体験できる。ジオラマと豊富な化石やレプリカを組み合わせ、各時代の環境と生物の移り変わりを紹介している。最初の生命の誕生から我々人類が現れるまでの長い進化の歴史を学ぶことができる。</p>					
<会のモットー(何を大切にしているか)>					
<p><設立から現在に至るまでに変化したこと></p> <p>豊橋市自然史博物館は、愛知県内初の本格的な「自然史博物館」として昭和63年(1988)5月1日に開館した。昭和58年(1983)に豊橋市はアメリカのデンバー自然史博物館(現デンバー自然科学博物館)と友好提携を結んだ。それに伴い、豊橋市は中生代白亜紀後期に生息していた草食恐竜エドモントサウルス・アネクテンスを購入し、市制施行80周年記念事業として自然史博物館を建設した。</p> <p>博物館の敷地は動物園と隣接しており、平成4年(1992)4月29日に自然史博物館、動物園、遊園地の敷地・設備が整備され、全体として豊橋総合動植物公園となった。</p>					
<連携している団体・専門家・自治体など>					
豊橋市自然史博物館ボランティア 43人(男性13人、女性30人)					
<今までに行った調査・研究>					
<p>所蔵資料をもとに、特別企画展などの展示や研究報告・資料集などの刊行物として成果を発表している。</p> <p>教育普及は、主に学芸員が講師をつとめ開催する自然史講座、自然観察や室内実習を行う学習教室など、月に2回程度開催している。特別企画展は例年1回開催。収蔵資料紹介は年に数回行っている。また、博物館展示の導入としての大型映像の上映や学会、シンポジウムなども特別企画展示室で開催している。自然科学の現状を知り、自然観察・標本採集などを通して、自然に親しみ、自然への理解を深める普及活動に力を入れている。</p>					
<現在直面している課題>					
所蔵資料が、生物系、地学系の標本を合わせて、平成21年度(2010年3月)に約41万1千点に達した。このうち、約3,400点を展示している。標本はそれぞれに適した処理がなされ、温・湿度の変化に弱いものは、恒温・恒湿の収蔵庫に保管されているが、収蔵庫スペースが少なくなってきた。					
<今後やってみたいこと>					
子どもたちが自主的に科学に取り組む姿勢や内容の向上につながるような学術活動および教育普及活動の実施。					
<そのためにはどんな情報・人脈が必要か>					
<チームオリジナルの質問>					
質問内容:					
答え:					

<その他、伝えたいこと>



博物館ホームページより
ふれて楽しむ化石壁